



第 67 号(2017 年 5 月 9 日)
LET 九州・沖縄支部事務局発行
〒818-0192 太宰府市石坂 2-12-1
筑紫女学園大学 松崎徹研究室
TEL 092-925-9279
E-mail: secretariat@j-LET-ko.org
編集:林 裕子・植田 正暢・事務局

第 46 回(2017 年度)九州・沖縄支部研究大会のご案内

林 裕子 (佐賀大学)

6月3日(土)に佐賀大学本庄キャンパス(佐賀市本庄町1番地)(写真 1)で第 46 回支部研究大会が開催されます。佐賀での開催は、1988 年(昭和 63 年)に葉がくれ荘(現「HOTEL グランデはがくれ」)で行われて以来 29 年ぶりであり、佐賀大学では初めての開催となります。そのような記念すべき大会の実行委員長を拝命し、現在、佐賀大学の LET 会員である江口誠先生をはじめ、仲山雄二先生(岱志高校)、綱智子先生(長崎国際大学非常勤)と LET 九州沖縄支部事務局の先生方と共に、準備を進めております。

今大会のテーマは、「思考力の高まりを目指した外国語教育のあり方について—小中高大接続に寄与する言語活動の検討—」です。今日、次期学習指導要領で求められる育成すべき資質・能力の三つの柱¹⁾を踏まえ、児童・生徒の主体性や対話を引き出し、深い学びの実現に向けた授業設計や指導方法の開発や検証、授業実践が重視されています。今大会ではその中でも特に「思考力」に焦点を当て、理論的・実践的観点から、小中高大で一貫性のある外国語教育のあり方について情報交換や議論を通して理解を深めることを目指します。

大会当日の午前中は、日吉敬子先生(佐

賀県教育センター)によるワークショップが行われます。「読むことの領域における思考力の高まりを目指した英語学習の在り方」というテーマの下、読みのプロセス【Pre-reading(読解前の活動)、While-reading(読解活動)、Post-reading(読解後の活動)】における、生徒の思考レベルに応じた発問(具体的な問いかけ)の内容や提供方法について、模擬活動や演習を中心に進めて頂きます。当日参加も可能ですので、多くの方々にご参加頂けると幸いです。

午後は、門田修平先生(関西学院大学)による基調講演(演題「英語の読解・聴解など第二言語処理を支える認知メカニズム:実行機能(Executive Function)とは何か?」)が行われます。午前中のワークショップや午



写真 1.佐賀大学(本庄キャンパス)

後(後半部)のシンポジウムと密接につながる内容で、英語(第二言語)の読解・聴解など言語運用を支える、メタ認知と実行機能について、バイリンガリズムやワーキングメモリなど関連分野の研究成果をもとにご講演頂きます。

シンポジウムは、吉田明寛先生(佐賀市立本庄小学校)、日吉敬子先生(佐賀県教育センター)、相島倫子先生(佐賀県教育センター)の3名のパネリストをお招きし、外国語教育における思考力の育成について、実践内容やその成果をご発表頂きます(コーディネーター:大会実行委員長(林))。パネリストの発表後は、フロアとのディスカッションの時間を設け、インタラクティブで有意義な情報交換の場となることを期待しています。

大会終了後は本庄キャンパス内に設置されたカフェソネス(CAFÉ SONES)で情報交換会が開かれます。教育学部1号館から徒歩1分の距離に位置し、立食形式で和洋折衷の美味しい料理を楽しむことができます。CAFÉ SONESの隣には、2013年(平成25年)10月1日で「旧佐賀大学」と「佐賀医科大

学」が統合して10周年を迎えるのを記念し設置された「佐賀大学美術館」が併設されています。同館は、教育・研究や、地域・社会貢献に有意義に活用できるよう設置された全国的にも珍しい国立大学の美術館です。大会の前後やお昼休み等の時間を活用してぜひお立ち寄りください。

大会まで約1ヶ月となり、大会準備は最終段階に突入しております。最新の授業実践や研究成果について共有しながら、今後の教育・研究活動の課題や発展について共に考え見出す、有意義な大会となるよう、今後も引き続き準備を進めてまいります。一人でも多くの方々のご参加を、大会実行委員一同お待ちしております。

[1] 文部科学省 中央教育審議会(2016)『次期学習指導要領等に関するこれまでの審議のまとめ 補足資料』URL:

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/_icsFiles/afiel_dfile/2016/08/29/1376580_2_4_1.pdf (アクセス日:2017年3月28日)

2016年度 学術講演会参加報告

江口 誠 (佐賀大学)

2016年1月28日(土)の午後、福岡大学文系センターにおいて、2016年度学術講演会が開催された。講演者として千葉商科大学教授の酒井志延氏を迎え、「日本における複言語主義と CLIL」という題目でご講演頂いた(写真2)。「複言語主義」(plurilingualism)も「CLIL」(Content and Language Inte-

grated Learning)についても、(賛否は別としても)教育に携わる者として、いずれも押さえておくべき概念及び教育法であると考え。

まず講演の冒頭で酒井氏の専門でもあるリメディアル教育に関連して、日本の大学生の英語力の惨憺たる現状について見解を述べられた。大学における英語の授業の約8割はリメ

ディアルであると言っても過言ではなく、最大の問題点はリメディアル対象の学生は学習した内容が内在化できないことであり、それは学生の英語に対する意識が変わってしまっていることに起因しているという。

次に「グローバル化」と「国際化」という 2 つの現象について、自身の体験談を交えつつ、それぞれを柔道と相撲とに擬えてその違いを述べられた。但し、今後更なるグローバル化の波が押し寄せた時に必要な言語として、果たして英語のみを学ぶことでよいのだろうかという疑問も投げ掛けられた。グローバル時代の言語教育に関するアンケートでは、多くの教員が「英語は国際語だから大学生には英語教育だけでいい」と回答しているが、酒井氏は広島大学の柳瀬陽介氏の論文を引用し、「日本の言語使用に関する言説が英語と日本語の間で閉じられてしまい、なかなか他の言語や文化に私たちの目が向かない」現状に警鐘を鳴らすとともに、それによって「英語母語話者がモデルとして歓迎され、英語の価値が強調される」、つまりは言語間の上下関係が生じてしまうと述べられた。それに関連して、ブラジ・カチュルの「円を使った世界諸英語のモデル化」やロバート・フィリップソンの「英語帝国主義」の概念についても言及があった。

但し、近年見られる“World Englishes”の概念や後述の CLIL の実践の広まりを考えると、いわゆる「ネイティブ信仰」に関しては個人的にはさほど憂慮する必要はないのではないかと思われる。しかしながら、「英語の価値が強調される」点については、日本の大学における英語教育の現状を見てみると、近年英語一辺倒の傾向が益々強まりつつあるのは紛れもない事実であろう。実際、残念ながら私の所属先で

も、効率性や経済性の名の下に教育の多様性が失われる事態が生じてしまっているからである。

講演の最後は、日本でも徐々に広まりつつある CLIL に関する内容であった。酒井氏によれば、上述の複言語主義と CLIL によって「理解と共感の高まりを目指す教育」を実践すべきとし、CLIL の 4 要素(4Cs)、つまり Content (科目内容の知識)、Communication (言語学習)、Cognition (思考力) 及び Culture/Community (異文化理解/協同学習) は日本の小学校教育に向いているという。さらに、ヨーロッパの実践例を紹介しつつ、とりわけ協同学習を重視すべきであると述べられた。その際、「平等性」が担保されること、つまり学習者それぞれが平等に授業に参加することが肝要であるという指摘があった。

講演の途中及び終了後には、参加者から多くの質問があり、酒井氏の講演は好評のうちに終了した。今回は、時宜にかなったテーマでの講演を拝聴する機会を与えて頂き、自身の英語教育の実践を振り返るいい機会となった。LET 九州・沖縄支部長をはじめ、事務局及び関係の先生方に感謝の意を表したい。



写真 2. 講演の様子

LET2016 年度理事会報告

LET 九州・沖縄支部副支部長
長 加奈子 (福岡大学)

2016 年度 LET 全国研究大会初日である 8 月 7 日(日)12 時 40 分より 16 時 10 分まで、早稲田大学において 29 名中 22 名の出席をもって、理事会が開催された。今年度より会長以下、本部の体制がかわり、理事会は柳新会長の挨拶より始まった。議長は 2017 年度全国研究大会開催支部である中部支部支部長の高橋理事が務めた。理事会で審議・報告された議案について、その概要について報告する。

<審議事項>

1. 学会法人化に向けて:新会計制度導入について

LET は即座に法人化することは考えていないが、将来的に法人化が必要となった際に、スムーズに移行するための準備として、複式簿記の導入が検討されている。本部より、Excel による従来の出納帳をもとに、会計事務所において複式簿記に変換するという提案がなされ、審議の結果、承認された。

2. 支部提案事項

2-1) メール稟議について

理事会が年に 1 回の開催であるため、メール稟議の位置づけについて検討がなされた。メール稟議は、緊急性のある案件について行い、反対意見が出された場合は、慎重に対応することが確認された。

2-2) 会長・副会長会議の位置づけと名称について

現在、年に 1 回開催される理事会を補完す

る形で 1 月に開催される会長・副会長会議について、学会運営においては、理事会の決定事項が優先されるということが承認された。また合わせて提案された常任理事会等への名称変更は、「常任理事」の定義づけが難しいため、現状の名称のままとなった。

3. 2015 年度本部事業報告

4. 2015 年度本部決算報告

資料に基づき、本部事務局長より説明があり、承認された。なお決算案の費目「本部事業費」の「備考」について質問があり、同費目の決算 30,263 円全てが法人化を見据えた会計制度導入のための会計事務所との打ち合わせ会議の経費であることが説明され、「積立金」については繰越金に含まれていることが説明された。なお、「積立金」については理事会後に本部で協議し、今後本部会計銀行口座中の定期預金等の形で積み立てを実質化していくこととした。

5. 2016 年度本部事業計画

6. 2016 年度本部予算(案)

資料に基づき説明があり、承認された。

7. その他

柳会長より、九州・沖縄支部の田口支部長から提起された、2020 年度全国大会の開催時期をいつにするか、そして 60 回記念大会とすべきかという問題について、資料に基づいて説明があった。柳会長より、時期を 9 月以降にずらして検討するという原案が示され、継続し

て検討することとした。また、60 回記念大会とすべきかどうかについても、継続して検討することとした。

<報告事項>

1. 本部報告

1) 2016 年度各支部選出役員

2) 2016 年度正会員数について

3) 2016 年度賛助会員について

資料に基づき、報告された。

4) 学会機関誌第 53 号の発行について

資料に基づき機関誌編集委員長より機関誌第 53 号が予定通り発行され会員に郵送されたことが報告された。

5) 学会機関誌 J-STAGE への移行状況について

本部事務局長から学会機関誌の公開に関して経緯と予定を説明した。現在公開している CiNii の事業終了に伴い J-STAGE での公開に移行することとなっており、J-STAGE の利用申請と CiNii からのデータ移行作業申請を済ませ、今年度中の受付を経て、2017 年度中に J-STAGE での公開を開始する見通しであることが説明された。

6) 次号 Newsletter 発行について

Newsletter 97 号を発行準備する旨の説明があった。

7) メルマガの発行形態について (メルマガ委員から)

阪上委員長欠席のため、西尾委員が資料 p. 29 に基づき、本年 10 月から、LET メールマガジンを廃止し、同様の内容のブログへ移行す

るという案が出された。これに対してブログへ移行するとしても、メール通知を廃止することについては異論があり、メール通知の廃止については検討を続けることになった。名称については「LET メールマガ」から「LET ブログ」に変更することで承認された。

8) 関連学会との連携について

関連学会 2 団体(教育関連学会連絡協議会、言語系学会連合)との連携を継続する旨の説明があった。

2. 各種委員会からの報告

1) 学会賞選考委員会

2016 年度学会賞選考の経緯と結果の報告があった。また、選考委員会より要望書が提出され、論文賞選考経過に関する改善要望があった。これに対して、機関誌編集委員長から、査読は掲載・非掲載のために行っており、学会賞の推薦にふさわしい情報が提供できるとは思えない、しかし、どのような協力が可能か検討するとの答えがあった。会長から、学会賞選考委員長・編集委員長とともに、1 月の会長副会長会議まで検討をしたいと提案があり、了承した。

2) メールマガ編集委員会

上記の本部報告(7)をもって、メルマガ編集委員会からの報告に代えた。

3) 国際交流委員会

FLEAT の日本での開催を検討しており、2017 年度理事会で開催の日程や場所など基本的な事項を諮る予定であることが報告された。

3. 各支部報告

- 1) 2015 年度各支部事業報告・決算について
- 2) 2016 年度各支部事業計画・予算について
- 3) 関東支部臨時会費の廃止について

関東支部の臨時会費 1,000 円を 2017 年度より廃止し、他支部との年会費の平準化を行うことが報告された。

- 4) 第 55 回(2015 年度)全国研究大会決算報告

- 5) 第 57 回(2017 年度)全国研究大会進捗状況

中部支部長より、第 57 回全国研究大会は名古屋学院大学名古屋キャンパス白鳥学舎(名古屋市熱田区)において、高橋実行委員長・西尾事務局長の体制で開催されることが報告された。

- 6) 2017 年度以降の全国大会開催予定について

2017 年度以降の全国大会担当予定支部が資説明された。

7) その他

関西支部副支部長より、関西外国語大学 LL 歴史資料室の現状について報告があり、今後の対応を学会で検討して欲しいとの要望があった。会長を中心に検討することとなった。

5. ネット稟議追認事項

- 1) 日本 e ラーニング学会後援申請について
名義後援申請について、ネット稟議の際に異議がなかったので承認されたものとしたとの提案があり、追認した。

6. 懇談事項

- 1) 九州・沖縄支部長より、熊本地震への支援に対する謝意が表された。

- 2) 第 56 回(2016 年度)全国研究大会実行委員長より、大会進捗状況についての報告があった。

以上

事務局からのお知らせ

【新会員】

<正会員>

江藤 昌晶

佐々木 有紀(福岡大学)

モクスン ジョナサン(佐賀女子短期大学)

早瀬 博範(佐賀大学)

<学生会員>

レマスワール ロバート(ブリティッシュコロンビア大学)

倉富 裕太(佐賀大学)

【第46回支部研究大会】

第46回支部大会が以下の日程で開催されます。

日時: 6月3日(土)10:30~17:50

会場: 佐賀大学 本庄キャンパス

教育学部1号館(佐賀市本庄町1)

大会テーマ: 思考力の高まりを目指した外国語教育のあり方について—小中高大接続に寄与する言語活動の検討—

資料代: 非会員 1,000円, 非会員(学生) 500円, 会員無料

<プログラム>

1. ワークショップ

読むことの領域における思考力の高まりを目指した英語学習の在り方

日吉 敬子 先生

(佐賀県教育センター 研修課)

短期研修担当 係長)

2. 基調講演

英語の読解・聴解など第二言語処理を支える認知メカニズム: 実行機能 (Executive Function) とは何か?

門田 修平 先生(関西学院大学)

3. シンポジウム

思考力の高まりを目指した外国語教育のあり方について—小中高大接続に寄与する言語活動の検討—

○ パネリスト

吉田 明寛 先生

(佐賀市立本庄小学校 教諭)

英語教育推進リーダー)

日吉 敬子 先生

(佐賀県教育センター 研修課)

短期研修担当 係長)

相島 倫子 先生

(佐賀県教育センター 情報課)

情報教育担当 指導主事)

○ コーディネーター

林 裕子 先生(佐賀大学)

4. 研究発表

5. 情報交換会(カフェソネス2階)

情報交換会のお申し込みは、支部ホームページにて受け付け中でございます。皆様のご参加をお待ちいたしております。

【第57回全国研究大会】

第57回 LET 全国大会が以下の日程で開催されます。

日時: 8月5日(土)~7日(月)

会場: 名古屋学院大学名古屋キャンパス
日比野学舎(ワークショップ)・白鳥学舎(本大会)

大会テーマ:

外国語教育の未来: アクティブラーニングの資するもの(The Future of Language Education: How Active Learning can Contribute)

詳細につきましては大会ホームページ
(<https://www.let2017.net>)をご覧ください。

【会費納入のお願い】

2017年度の会費振り込みのお願いが、登録住所宛に送付されていると思います。まだお振り込みいただいていない会員の方は、お早めにお振り込みいただきますようお願いいたします(個人会員・団体会員は6,000円、学生会員は3,000円)。未納の状態が続く場合には支部からの発送物を停止させていただく場合がございます。支部の円滑な運営のためにもご協力をお願いいたします。なお住所・所属等

に変更が生じた場合には、学会本部のHPより変更していただきますようお願い申し上げます。

【LET ホームページ】

LET 本部 <http://www.j-let.org>

LET 九州・沖縄支部

<http://www.j-let-ko.org/>

【LET 九州・沖縄支部事務局】

〒818-0192 大宰府市石坂 2-12-1

筑紫女学園大学 松崎 徹 研究室内